

看護小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(有)ニューズコーポレーション	代表者	平尾 良雄	法人・事業所の特徴	医療的ケアが必要となった方々が、最後まで住み慣れた地域や自宅で安心して暮らし続けることができるよう、必要に応じて通いや訪問、泊りのサービスを組み合わせ、ご利用者様に必要とされる事業所となれるよう心掛けております
事業所名	看護小規模多機能ケア みらい	管理者	竹本 妙子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	1人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様のニーズ、必要なケアを共有し、その人に合ったケアを提供できるようにする。	1人1人の状態、状況を考慮しながら、ニーズに合わせたケアができていた。	職員で常にミーティング、会議等で改善していく姿勢が見られた。今後も継続していき、より良い環境づくりを心掛けてほしい。	職員の意見を反映し、尊重しながら、事業所に対する評価をよりしっかり行えるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が気軽に入りやすいように開けている日は看板を出す。	看板等出すことは出来なかった。地域に根差すためにも、様々な活動、声掛け等が必要	実際の関りは難しかったようで、みらいに家族が来る機会が少なかったのではないかと。庭のスペースも上手に使えると良いと思う。	利用者が増えていくように事業所の知名度を上げていく。チラシやパンフレットを配り知ってもらおう努力をしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域のイベント等の情報収集と、参加できるようにし、事業所のことを知って頂けるよう努める。	事業所を利用した取り組み行うことができず、日々の業務に追われてしまった。	場所は知られているが「何をしている場所」かは知られていないのでは。オレンジカフェへの参加を継続しつつ、老人会などにも顔を出せると良い。	看多機「みらい」として積極的にイベントに参加し、地域の方にも知ってもらおう。社協や他事業所との共同イベントも計画してみる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	興味を持ってもらえるように貼り紙や、看板を設置し、相談の場となれるよう努める。	貼り紙や看板を設けることができなかったが、電話の相談が少しずつ増えてきた。	利用者の状態から、イベント参加が難しい方が多いので、逆に地域の方に場所を開放するのもよいと思う。「来てもらう」のも1つの参加方法。	民生委員や地域の方の意を聞く場に積極的に参加し交流を持ち、身近な介護難民等の情報を得ていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の方にも継続して参加して頂き、サービスのことを知って頂けるようにする。	地域の方にも意見を聞き、「勉強になる」と言って頂けた。毎回、会議に参加して頂けた。	事業所の状況を詳しく報告頂けているので、把握することができている。今後その内容を外部の方にも知ってもらうのも良い。	多職種の連携の場なので、お互いの知識向上の為にも積極的に議論していく。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回行っている防災訓練に地域の人たちにも参加して頂けるよう声をかける。	近所で火事があった。今までは地域の方の参加はして頂けなかったが、連携の必要性を感じたので、声掛けを行っていき、参加を伺っていきたい。	BCPなどを運営推進委員会でチェックしていくのも「アリ」かと思う。地域もそうだが、委員に実施案内を出しても良いかと思う。	新しい年度になるので、今後地域の方に声掛けし協力してもらい、一緒に訓練を行っていききたい。